

公民館発信!

生きがいつくりと コミュニティスクール

令和4年10月

福井市順化公民館

複いいね！ In 順化

(順化公民館・小学校複合化 学社連携プロジェクト)

<目的>

福井市で初となる順化公民館と順化小学校の複合化に伴い、改修の目的である学社連携を推進させるため、人的機能を充実する。

順化公民館と順化小学校における学社連携を推進し、地域住民の生きがいがづくりと児童の健全育成を図る。(以下、順化複合プロジェクトと称する)

<これまでの経緯>

令和 2 年、順化公民館と順化小学校は同じ施設内に設置され、社会教育と学校教育の融合をめざして複合化した。福井市内初のケースであり、双方のメリットを生かして、児童の健全育成と地域住民の生きがいの場をつくる場として期待されてきた。

しかし、令和 2 年春に顕在化した新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、さまざまな場面で行動が制限された。マスク着用やソーシャルディスタンス保持などに加え、人と人とのかかわりを極力減らす方向で世の中全体が動いてきた。

学校教育においては、これまで地域の人材活用に向けてさまざまな取組が行われてきた。例えば、「〇〇学校人材バンク」への登録を呼びかけてきた。これは、児童生徒を通じて保護者などが地域の方や知人で特技や学識経験のある人をリストアップし、人材バンクに登録してもらうという仕組みが設けられてきた。しかし、学級担任が人材バンクを活用する際に、リストにある方と顔が繋がっておらず、どの程度の支援が得られるのか分からないなど不安材料が多かった。また、多忙な学級担任が連絡を取ったり、具体的な説明を行ったりするのは困難で、なかなかスムーズに進まないというのが現状であった。実際に支援を得られたとしても、翌年は同じ担任でないことから、同じ方に再度お願いすることは少なく、単発的なつながりとなってしまうのがほとんどであった。

福井市においても、授業支援アドバイザーや高齢者人材派遣事業など多様な取組が行われている。それぞれの課題や成果の説明については、市に委ねることとする。

平成 27 年 12 月の中央教育審議会答申では、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」が取りまとめられました。この提言の背景には、学校の抱える課題の複雑化・困難化、家庭における子どもの貧困、家庭の教育力の低下、地域においては超高齢化と人口減少社会の問題があります。この答申では、地域における学校づくりを進めるとともに、学校を核とした地域の活性化を図る観点から、地域と学校がともに連携・協働し、子どもたちの成長を支え、さらに地域を創生する活動を重視し、新たに「地域 学校協働活動」と位置付けています。

市内で唯一 小学校と複合化された 順化公民館

平成 29 年度に構想が示され、令和 2 年に校舎の長寿命化と公民館との複合化が実現した順化小学校。移転改築で新たなスタートを切った順化公民館であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大により当初から休館となりました。

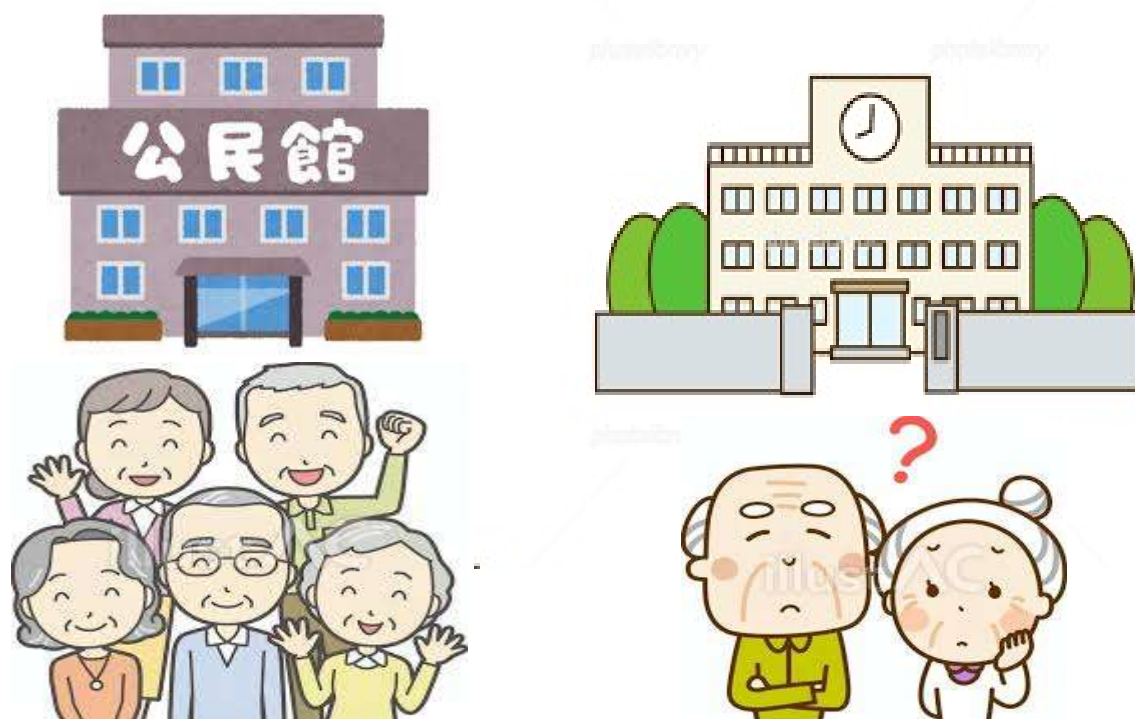
2 年半を経過した今も、第 7 波の影響は大きくコロナ前の状態とは程遠いままです。けれども、感染に対する考え方や行政の対応・措置などは変わりつつあり、効果的なワクチンや治療薬の開発も進んでおり、「With コロナ」が定着してきました。

この機会を逃さず、公民館に集う地域住民の力を活かし、生きがいづくりの場としつつ、子どもたちに生きた教育・生きる力を身につけられる役割を担っていきたいと考えます。

地域社会の現状

公民館は地域住民にとって気軽に来れる娯楽・交流の場

しかし、学校は……

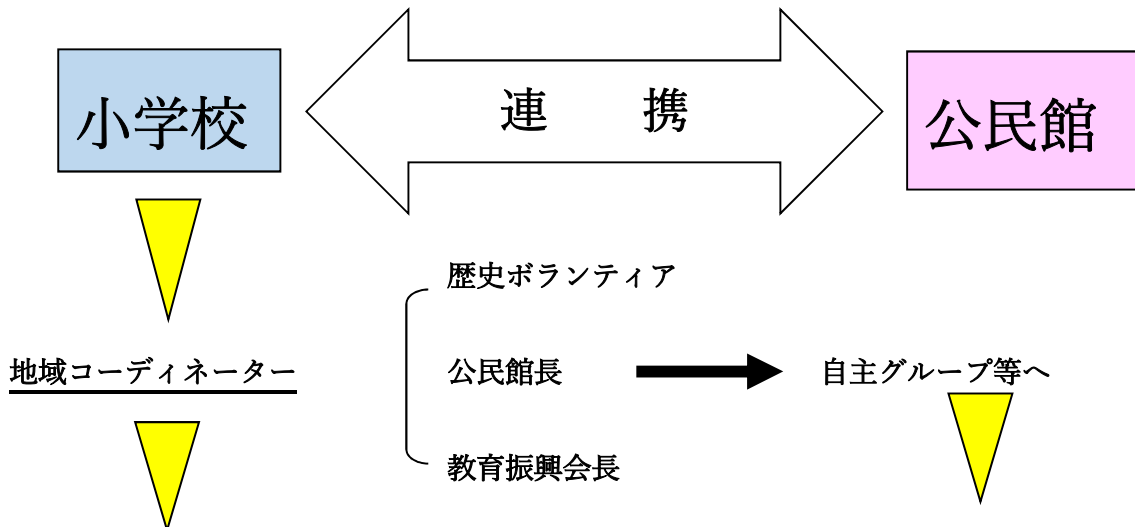


学校は子や孫が通っているが、用向きがないと気後れし入りにくい。

コミュニティスクールの機能を強化するために

現時点で、学校は地域コーディネーターを介して地域の人材を呼び込もうとしている。学校の求めに応じて、最適な人材を紹介するのは可能である。しかし、以下の点で課題があり、機能強化の余地が残されている。

- ・ 小学校教員は多忙であり、子どもと過ごす時間が夕方まで続くため連絡がとりにくい。
- ・ 地域コーディネーターに加え、紹介された方の両方に学習内容を説明する必要がある。
- ・ イベント型や交流型の内容が多く、関わり方が単発的になりやすいため継続しにくい。



* 例えば *

生活科野菜苗の植え付け



単発的なかかわり

イベント的、交流型

利用者との継続的なつながり

- ・ 夏場の週休日の水やり

公民館は土日でも開館している

- ・ 園芸の達人が活躍

害虫の駆除、時期に合った収穫

増し土や追肥、除草

- ・ 児童との心のふれあい

⇒○○ちゃんの植木鉢だネ

令和4年度 複いいね！学社連携

実践報告

および

企画案



順化公民館

実践例①

コキアでほうきづくり

順化公民館北側、さくら通りに面して順化フラワーガーデンと名付けられた大型の花壇がある。市民憲章事業として順化地区の花ボランティアの方々が花苗を植えたり、除草や水やりなどをしたりして、年間を通じて手入れを行っている。花壇に咲きほこる花々は、来館者や通行する人々の目を和ませている。

令和3年度の春花壇苗の定着が十分でなかったため、地域の方がコキアの苗を分けてくださり、植え付けたところ、しっかり根付き日に日に大きくなっていった。夏ごろには1メートルを超える株も現れ、通りがかる人を驚かせていた。

コキアは別名「ほうき草」と呼ばれ、古くからほうきづくりの材料として活用されてきた。



苗植え作業を行う花ボランティア達 中央の円柱状の植物がコキア

登下校中の子どもたちから「トトロみたい」との声が上がり、それでは！とアニメ「となりのトトロ」の大トトロのキャラクターに似せて、デコレーションを施した。

秋に紅に色づくコキアは鮮やかで迫力があり、美しい光景となった。このころから花ボランティアの方々から、小学生にほうきづくりの体験をしてもらおうという意見が出され、小学校の授業との連携事業が実現した。

地域の力を子どもたちの生きる力に

みんなの花壇「順化フラワーガーデン」育ち！

コキアでほうきを作ろう

会場：順化公民館大ホール

ねらい

福井市市民憲章「すすんで工夫をこらし清潔で美しいまちをつくりましょう」（ふるさとを今よりもっと美しく）の順化支部実践事業として行われているさくら通り側花壇の整備について児童に知ってもらい、自分たちの花壇・自分たちの町を美しくしようという意識を醸成する。

観賞用に育てた植物が生活の道具としても役立つ例を学ぶことで、「もったいない」の意識・工夫によってゴミを減らす循環型社会を目指す意識を育てる。

パワーポイントで説明（2～3分以内）

- ・市民憲章事業について
- ・複合化からの花壇整備作業の流れ（2020年5月に最初の植栽、花壇の名前募集、表彰式、今年に入ってからの作業～コキアが育つまで）

コキアほうき作り

- ・講師の皆さん（花ボランティアさん）紹介
- ・秋田さん中心に作り方の説明

材料

- ・コキア
- ・ロープ
- ・飾り



順化フラワーガーデン育ち！
コキアでほうきを作ろう

令和4年1月26日(水)
順化公民館大ホール



コキアの基本情報

学名 : *Bassia scoparia*
(*Kochia scoparia*)

和名 : ホウキギ

その他の名前 : イソボウキ、
イソホウキギ、ホウキグサ、
サマーサイプレス、
バーニングブッシュ

科名 / 属名 : ヒユ科
/ ホウキギ属 (バッシア属)



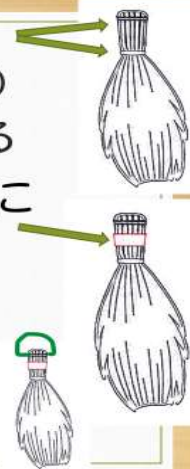
コキアでホーキを作ろう

・ < 作業手順 >



- ① 軍手をはめて、コキアについている種を取る（あらかじめある程度は取り除いてあります）輪ゴムは外さない
- ② 束状のコキアを、平らなところでトントンとして、軽くそろえ長さを決める

- ③ 茎を2か所、カラフル麻ひもでむすぶ（ゆるまないように強くむすぶ）仕上げの時に結び目にボンドをつける
- ④ ③でむすんだ2か所の麻ひもの間に両面テープをはり、毛糸を巻いてアクセントをつける
- ⑤ つり下げ用のワイヤーをつける
～飾りの鈴を付けてできあがり～



実践例②

クイズで納得^{なっとく}！まなぼうさい！

「いのちを守る」にはどうすればいいの？

順化公民館 わくわく防災教室

日時 令和3年12月23日（木）

場所 順化公民館大ホール

講師 順化地区自主防災組織 秋田閲子委員 大森悦子委員

対象 順化小学校低学年児童

時間帯		内容	場所	準備物
14:30～	あいさつ		和室	
14:35～ 14:50	わくわく防災教室 オリエンテーション ●防災ビンゴの説明	・自分でできる防災のことを考えよう ・シールの説明 ・ルールの説明	和室	※準備物(公) 水,油性ペン,ホカロ,冷却シート,乾電池,ラップ,ゴミ袋,ホル,紙皿,トレットペーパー,ティッシュペーパー,マスク,タオル,ハンカチ,軍手,スティックパン,サイジュース,
14:50～	●ビンゴの準備	各自、考えてシールを貼る	和室	
14:55～	●ビンゴ開始	当たったら、賞品ゲット	和室	ビンゴ賞 トルトカレー 赤飯 味噌汁
15:10～25	●ビンゴ終了	・家で今日の話を話し合う ・防災リュックの使い方の説明	和室	参加賞 防災リュック,スティックパン,みそ汁,ホカロ,サイジュース

地震だ!!



ミッション1 クイズで防災行動の確認

ミッション2 体験しよう

- 担架を作る
- 防災トイレって

ミッション3 いのちを守る行動とは

- ミッション①②③、すべてクリアすると
防災グッズがもらえるよ

防災ビンゴ

地震などの災害や非常時に備えて、用意しておくべきいなるものを下のマス目にシールをはってみよう。

こたえあわせでタテ・ヨコ・ナナメのどれか一行がそろったらビンゴ!



防災ビンゴ

- | | | | | |
|----|---|-----|-----|-------|
| 電池 | 水 | 食べ物 | タオル | ティッシュ |
|----|---|-----|-----|-------|

ふりかえりシート

低学年児童が大半であるため、短い時間での振り返りの記録は難しかったようだ。

今日の学習を振り返りましょう。

先玉にきちんとどあいさつできましたか？	できた	できなかった
わからないことがあったり、できないときは先生にたずねることができましたか？	できた	できなかった
今日の学習を最後までがんばれましたか？	できた	できなかった
今日あったことをおうちの人に話しますか？	はい	いいえ

今日あったこと 心にのこったことを書きましょう。

さようば、ぼうさんとかわばんきうにた。たしりーのやつはかあいいし。くまには、おどろきました。たのしかったア。

今日の学習を振り返りましょう。

先玉にきちんとどあいさつできましたか？	できた	できなかった
わからないことがあったり、できないときは先生にたずねることができましたか？	できた	できなかった
今日の学習を最後までがんばれましたか？	できた	できなかった
今日あったことをおうちのの人に話しますか？	はい	いいえ

今日あったこと 心にのこったことを書きましょう。

たの

ほくは 防災 始が 加敷 1か、1、19

実践例③

岡倉天心顕彰祭

岡倉天心は東京美術学校（現東京芸術大学）の礎を築いた福井県ゆかりの芸術家である。毎年9月2日には、福井市藤島町の西超勝寺で天心忌が営まれ地域の児童や住民が参列する。また11月には、岡倉天心顕彰祭が催され、中央公園の天心像の前で順化小学校児童が「天心先生に捧げる詞」を朗読し、遺徳を偲んでいる。

しかし、ここ3年はコロナ禍の為児童の参加は控えることとなり、代わりに写真や写生画コンクールを実施している。顕彰祭には順化小学校の4年生児童が出席していたので、4年生が中央公園の天心像の前で写生を行っている。

順化公民館は以前より岡倉天心顕彰会と連携し、順化小学校の児童に天心の偉業を伝え遺徳を偲ぶ活動を展開している。

左：岡倉天心写生画コンクール審査風景
下：順化小学校4年生児童の写生画作品



岡倉天心顕彰祭
以前は順化小児童が天心先生に捧げる詞を披露した

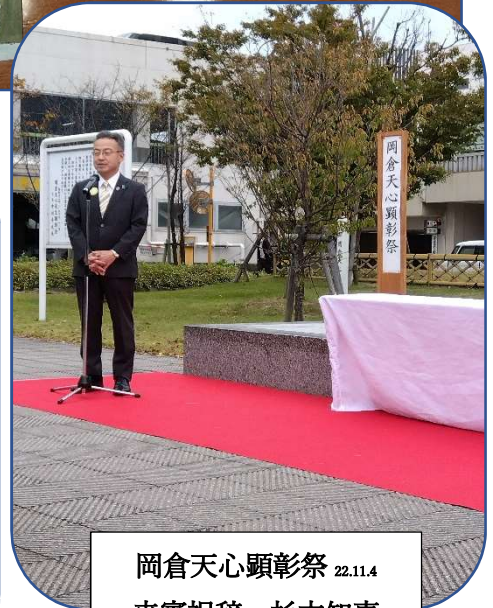
岡倉天心顕彰祭



とき 令和四年十一月四日（金曜日）
午前十時より

ところ 福井市中央公園 岡倉天心像前

主催 岡倉天心福井県顕彰会



岡倉天心顕彰祭 22.11.4
来賓祝辞 杉本知事

企画案

カリキュラムコーディネーターの配置

順化複合プロジェクトでめざす取組

順化公民館・順化小学校の学社連携においては、越前市武生東地区の学社融合に近づけるため、栃木県鹿沼市石川小学校やいわき市の教科等の取組方にならって進めたいと考える。これまでのイベント型や交流型による単発的な連携ではなく、教科の学習指導計画に沿って継続的につながり、常時組織的にかかわりながら成果を上げていきたい。

そのために、次のような手立てを講じることで、実践を重ねたい。

市教委の指導による学社連携協議会の立ち上げ

順化小学校と順化公民館・各種団体とが共同で学社連携の方向性を探る

複合化業務に関する専任の職員（仮称）：カリキュラムコーディネーター）の配置

<従来の連携における課題>

- ・人材バンク→保護者を通じて各分野の達人をリストアップしたが、活用できていない。
- ・地域の人材活用→担任が毎年代わるため、ピンポイントで単発的な関わりになりやすい。
- ・学校教育と社会教育の両輪を活かす学社連携への取組が不十分で、メリットを共有していない。

<今後の方策>

- ・学校の授業の年間計画を示し、地域の力の活かし方や担当する団体を具体的に記入する。
- ・各種団体長や自主グループと協議し、協力できる授業内容を申し出てもらう。
- ・カリキュラムマネージャー（仮称）を配置し、学校との連絡調整と主事の業務補助を行う。

<カリキュラムコーディネーターの具体的な業務内容>

- ・学校の授業の年間計画に基づき、地域の力の活かし方や協力依頼する各種団体や自主グループを具体的に検討する。
- ・各種団体長や自主グループと協議し、協力できる授業内容を申し出てもらう。
- ・順化小学校の授業において、住民の支援できる内容を洗い出し、各学年の年間計画を立てる。
- ・各種団体や関係する自主グループと協議し、授業内容で支援できる場面を設定する。
- ・小学校（主に担任）と協議して日程や場所、支援内容を決定し、協力者を募る。
- ・授業のねらいを担当と確認し、支援内容や協力者の留意点（児童との関わり方）を話し合う。
- ・協力者への事前説明会を開き、授業のねらいや支援内容・留意点を伝える。

- ・授業に参加し、協力者一人ひとりの支援の様子を丁寧に観察する。
- ・授業後、担任・協力者の双方と意見交換し、課題や反省点をまとめて次回に活かす。

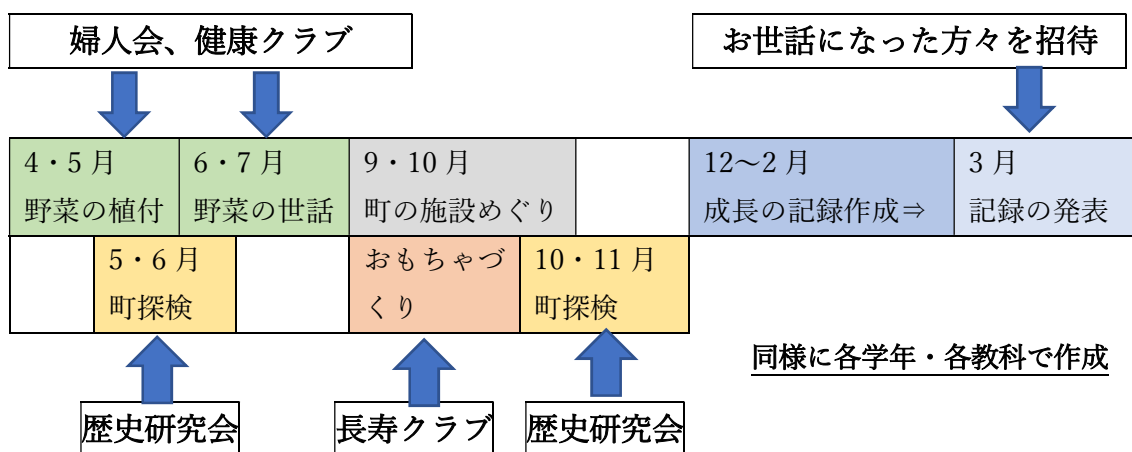
教科等別の主な内容

- ・国語 読み聞かせ、民話、習字、方言、俳句、点字、手話など
- ・社会 郷土の歴史、地域の産業、ごみの分別、租税教室、野菜作り、国際理解、伝承文化、見学学習など
- ・理科 作物栽培、星の観察、電気、新エネルギー、化学実験、地球温暖化など
- ・音楽指導、コーラス、おはやし、民謡、箏曲など
- ・技術・家庭 食育、郷土料理、編み物、パッチワーク、木工など
- ・美術・図工 工作、ちぎり絵、陶芸、絵画、版画、わら細工、彫刻など
- ・保健体育
リズム体操、フラダンス、水泳教室、救急知識、生命誕生、心と体など
- ・生活・総合
パソコン、福祉、介護、環境、自然観察、伝承遊び、味噌づくり、そば打ち、など
- ・クラブ活動 絵手紙、茶道、将棋、生け花

<カリキュラム型連携の推進>

例えば 2年生 生活科 年間カリキュラム

公民館自主グループ・各種団体の支援



上記のような支援をするにあたって、連絡調整を担当が行うのはかなり時間がかかり、負担が大きい。そのため、地域人材を有効活用するのが困難になる。また、担任は翌年度別の学年を担当することが多い。このようなことから、専任主事が担当するのが望ましい